



大正三年十二月神戸須磨に生れ、七才から神戸在住のスペイン人ヴィラヴェルデにピアノを学び、昭和三年の春十三才でピアノ研究のためパリに赴きラザール・レヴィやアルフレッド・コルトーの指導を受け、昭和五年の秋フランス国立音楽院に日本人として最初の入学を許可され、昭和七年春国立音楽院の卒業記念コンクールに振袖の袂を翻えし堂々と一等一席を獲得し、彼女の優秀性は世界中に伝えられた。

昭和十年秋フランス外務省の招きにより再渡仏し、コルトー、ルービンシュタイン、レヴィにピアノを師事し、パデルー及びシャトレ交響楽団にて協奏曲を演奏し、フランス放送員の資格を得た。昭和十二年二月のポーランド政府主催の国際コンクール（ショパン）に日本代表として参加し特別賞及び名誉賞を授与され全欧ラジオ放送を行い、イタリア、ドイツ演奏旅行の後、翌十四年二月には再び欧米演奏旅行に出発。サンフランシスコ、ニューヨーク、パリ、ロンドン等で演奏を行い第二次大戦勃発のため十五年に帰朝後は国内演奏旅行を行う。

昭和二十八年、二十九年、三十年等再び歐洲に飛びパリは勿論ロンドン、ブラッセル、ルクセンブルグ、バルセロナ、ロッテルダム、ヘーグ等を歴訪した。洗練された感覚は高度の技巧と相俟つてそのレパートリーをきわめてひろくしており現在我国のピアニスト中最右翼の一人たる地位は不動のものとなつている。

尚、大阪国際芸術祭参加後、現在国内各地を演奏旅行中のチェリスト、ガスパール・カサード氏の来日については、フランスで知り合つて以来の彼女の友情が実つたものと伝えられている。